# 株式会社日新 2016年3月期 決算説明会

~3期連続2桁増益 今期も自動車部品を牽引役に 増収増益見込み~

証券コード:9066



2016年5月20日

### 目次

■ 日新を取り巻〈Keyword P. 3

■ 2016年3月期 実績 P. 4

■ 2017年3月期 計画 P. 11

■ 中期経営計画の進捗状況 P. 18

■ 特集 : メキシコ物流の拡大に向けて P. 25



# 日新を取り巻くKeyword





# 2016年3月期実績

~減収なるものの、3期連続2桁増益 日本と米州が好調~



# 2016年3月期決算 サマリー

#### ■ 減収になるものの3期連続2桁増益

(単位:百万円)

	2015年3月期		2016年	F3月期	
	実績	期初計画	実績	計画比	前期比
売上高	204,461	213,000	201,705	94.7%	98.7%
営業利益	4,664	5,400	5,587	103.5%	119.8%
経常利益	5,135	5,600	5,887	105.0%	114.7%
当期利益	2,447	2,600	3,196	122.9%	130.6%
営業利益率	2.3%	_	2.8%	_	_
ROE	5.1%	_	6.4%	_	_



## 2016年3月期決算のポイント

為替変動

減収要因

燃料サーチャージ低減

日中間物量の減少

增益要因

物流品質の改善と利益率の向上



# 2016年3月期 地域別実績

(単位:百万円)

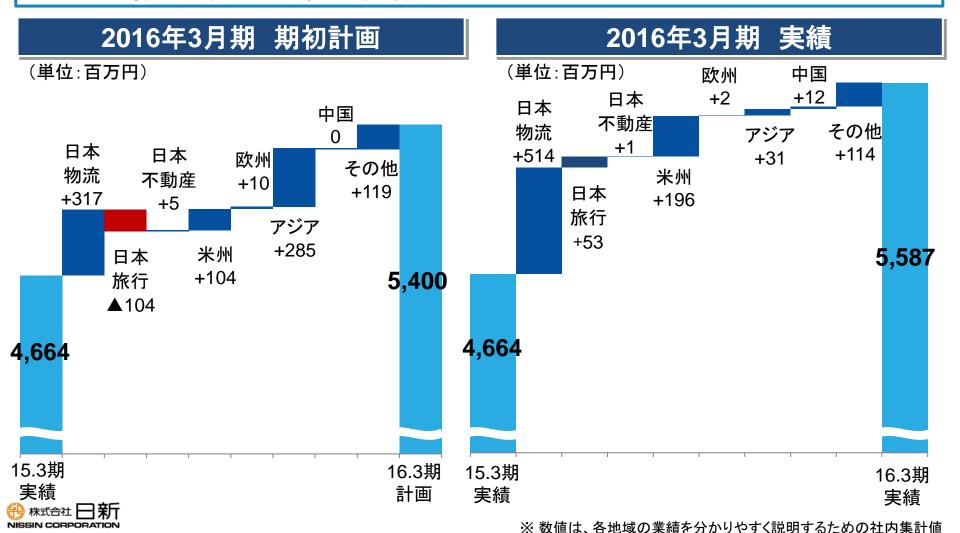
	2015年3月期		2016年3月期			
	売上高	営業利益	売上	高	営業	利益
	実 績	実 績	実 績	前期比	実 績	前期比
日本	146,424	2,676	143,327	△2.1%	3,358	25.4%
米州	15,138	190	15,946	5.3%	386	103.2%
欧州	10,026	55	9,294	△7.3%	57	3.6%
アジア	19,129	1,018	20,789	8.7%	1,049	3.0%
中国	13,744	725	12,349	△10.1%	737	1.7%
合計	204,461	4,664	201,705	△1.3%	5,587	19.8%



<sup>※</sup> 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

### 2016年3月期営業利益の増減要因分析

■ 日本、米州での自動車関連物流好調。アジアはマレーシア火災の影響でコスト増加。旅行は業務渡航順調。



# 営業利益の増減要因

(単位:百万円)

地域	期初計画	実績	対比	要因
日本物流	+317	+514	+197	<ul><li>■ 完成車の輸出入業務拡大</li><li>■ 物流品質の改善と利益率の向上に注力</li></ul>
日本旅行	▲104	+53	+157	<ul><li>アジア、北米向け業務渡航が堅調</li><li>目的別団体旅行が大幅に増加</li></ul>
米州	+104	+196	+92	■ メキシコでは完成車および自動車部品の 航空・海上輸出が大幅に増加
欧州	+10	+2	<b>▲</b> 8	■ ドイツの家電減少分をポーランドの 家具・日用品雑貨・電気製品の取扱い でカバーし微減
アジア	+285	+31	<b>▲</b> 254	■ マレーシア火災の影響でコスト増加
中国	_	+12	+12	■ 上海での倉庫保管業務が順調に伸長



# 2016年3月期の重点施策

■「広げる」、「進める」、「動かす」。今年は実現を果たすステージに

重点	施策	具体的取組み	評価		
		■ 米国中西部の部品保管の取扱拡大	0		
海外事業	広げる	■ 新規顧客の取り込みによる裾野の拡大	0		
<i>神</i> 介予未	小争来	<ul><li>タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア、インド、 米国、メキシコ、中国</li></ul>	<b>©</b>		
	国内事業 進める	■ 完成車の輸出入業務の拡大	0		
国内事業		■ 食品、医療、危険品業務の拡大	Δ		
		■ 陸上輸送業務の効率化への取組み	Δ		
				■ 海外人材育成	0
経営基盤動かす	動ん士	■ 老朽施設、遊休資産の有効活用に向けた取組み	0		
	割がり	■ 監査等委員会設置会社への移行による ガバナンス体制の強化	0		



# 2017年3月期 計画

~自動車を中心に増収増益を見込む~



# 2017年3月期 通期計画

#### ■ 増収増益、利益は4期連続増益を見込む

(単位:百万円)

	2015年3月期 実績	2016年3月期 実績	2017年3月期 計画	前期比
売上高	204,461	201,705	210,000	4.1%
営業利益	4,664	5,587	6,000	7.4%
経常利益	5,135	5,887	6,200	5.3%
当期利益	2,447	3,196	4,000	25.1%
営業利益率	2.3%	2.8%	2.9%	_
ROE	5.1%	6.4%	7.6%	_



## 2017年3月期通期計画のポイント

日本 : 国内生産回帰による完成車が通期で寄与

増収要因

欧州 : 自動車部品ミルクラン業務新規受注

ポーランド倉庫増床

中国 : 国内市場向け配送センター業務拡大

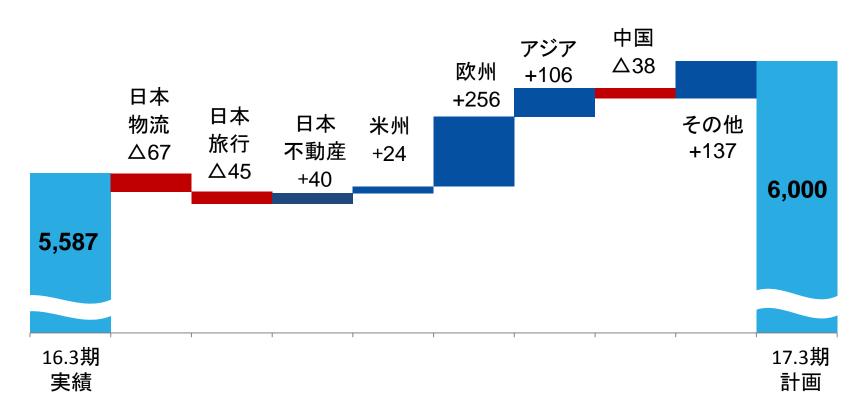
2017年3月期の為替想定レート 1\$=¥110、EUR=¥124 【為替換算差】 米ドル、ユーロは1円の変動で、売上高500百万円、営業利益22百万円の影響



## 2017年3月期地域別通期計画(営業利益)

■ 自動車関連物流(部品、完成車)が全般的に好調継続。

(単位:百万円)





※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

# 営業利益の増減要因

(単位:百万円)

地域	2016.3期 実績対比	要因因
日本物流	▲67	<ul><li>■ 退職金給付費用の増加</li><li>● 完成車の輸出堅調</li></ul>
日本旅行	<b>▲</b> 45	■ 対前年比団体旅行の減少見込む
日本不動産	+40	■ 遊休不動産の活用
米州	+24	■ メキシコ自動車関連堅調
欧州	+256	<ul><li>新規自動車関連ミルクラン業務開始</li><li>自動車イベント関連の堅調</li><li>ポーランド倉庫増床</li></ul>
アジア	+106	<ul><li>■ 自動車関連好調</li><li>■ マレーシア、インドの収支改善</li></ul>
中国	<b>▲</b> 38	■ 電機電子関連の減少



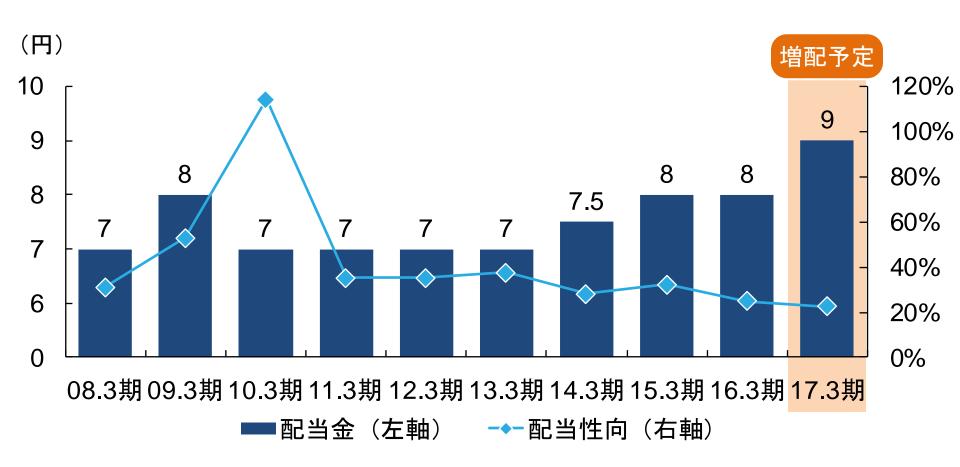
# 2017年3月期の重点施策

重点施策	具体的取組み
	■ 新規顧客の取り込みによる裾野の拡大
海外事業	<ul><li>自動車部品物流の拡大(メキシコ・タイ・英国)</li><li>航空事業の拡大(ベトナム・インド・インドネシア)</li><li>内需に対応するハードの構築(中国)</li></ul>
	■ 食品、医療、危険品業務の拡大
国内电光	■ 収益性のある施設への転換
国内事業	■ 陸上輸送業務の効率化への取組み
	■ ターミナル事業の再編、効率化
経営基盤	■ 海外人材育成
	■ グローバルリスクマネージメント体制の強化



### 配当政策

■ 安定的配当の継続が基本、17.3期増配予定





※2009年3月期は当社設立70周年記念増配

# 中期経営計画の進捗状況

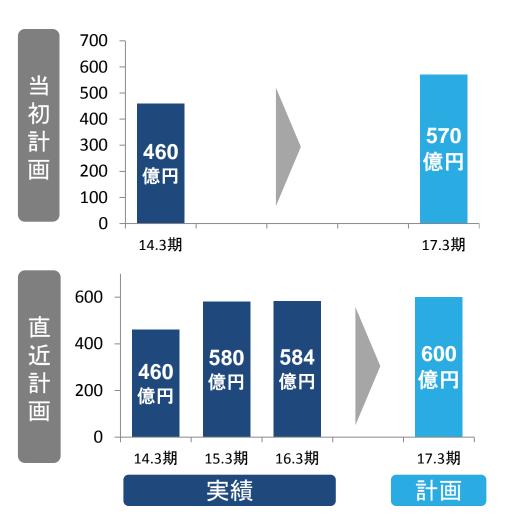
~利益目標は計画通り達成~

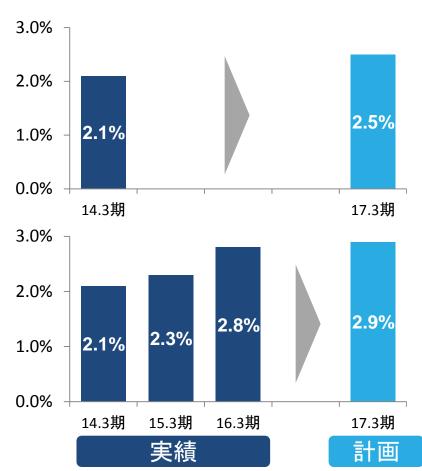


## 第5次中期経営計画

#### 海外現地法人の売上高拡大

#### 連結営業利益率の改善

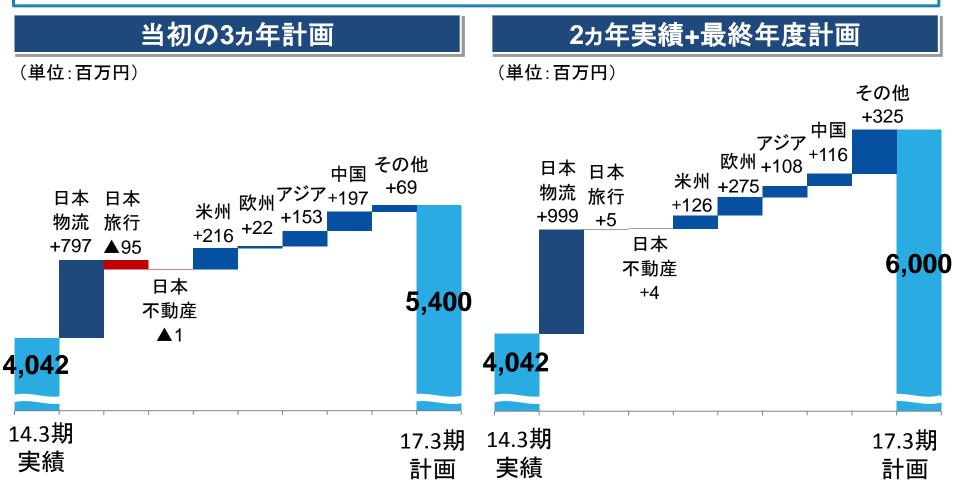






### 第5次中期経営計画3カ年での営業利益推移

■ 自動車関連物流(部品、完成車)の好調、旅行は業務渡航が順調に伸び、 計画を上回るペースで推移。



供式合社 日新

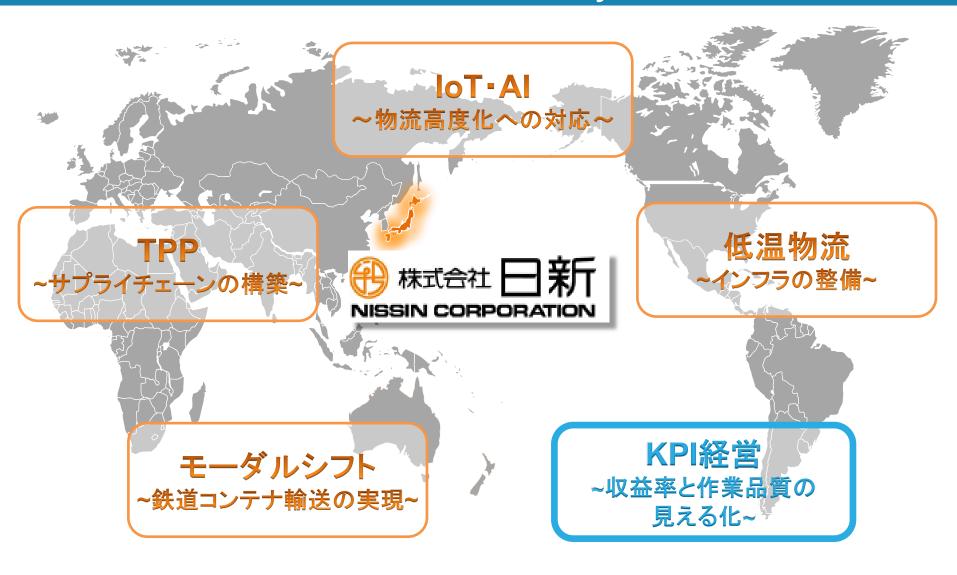
※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

# 今後予想される投資案件

地域		案件	進捗状況
海	米 国	■ オハイオ倉庫取得	2017年7月 取得予定
外	中国	■ 上海新倉庫建設	2017年以降
	横浜地区物流施設	■ 山下埠頭倉庫	2016年7月 取壊開始予定 2017年3月 取壊完了予定
		■ 神奈川埠頭倉庫	2015年10月 一部撤去開始
国内			2016年7月 解体工事開始 予定
	■ 福岡アイ	ランドシティ 新倉庫建設	2016年4月 港湾関連用地 取得 2018年3月 以降引渡し
	■ 本社ビル	建替え	解体工事完了



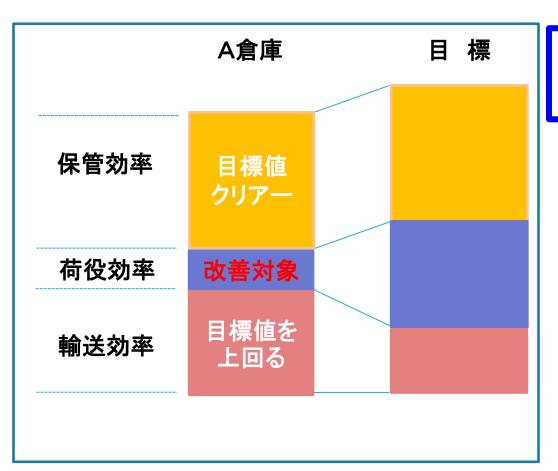
# 日新を取り巻くKeyword





### KPI経営の一例

#### 倉庫(63拠点)の収益率と作業品質向上のための "見える化"を実現



### 《現場KPIの効果》

#### 【効果①】

・保管、荷役、輸送の効率性が見える

#### 【効果②】

・利益の内訳が見える

#### 【効果③】

・単位当たりの収益性が分かる



### 本日のまとめ

16.3期実績

減収も、3期連続2桁増益 日本と米州が好調

17.3期計画

食品・医療・危険品業務の拡大 自動車を中心に増収増益を 見込む

中期経営計画の進捗状況

第5次中期経営計画の利益目標 は計画通り達成







# 特集 ~メキシコ物流の拡大に向けて~





# I. 自動車産業における メキシコの存在がさらに強まる



### メキシコは世界第7位の自動車生産国

- 伸び率は、米国、中国に次いで世界第3位
- 2014年には、ブラジルを抜いて生産台数世界第7位に躍進

#### 世界の自動車生産台数 上位10カ国

順位	201	1年
川貝江	国名	台数
1	中国	18,418
2	米国	8,653
3	日本	8,398
4	ドイツ	6,311
5	韓国	4,657
6	インド	3,936
7	ブラジル	3,406
8	メキシコ	2,680
9	スペイン	2,353
10	フランス	2,294

川石 / 六	2014年			
順位	国名	台数	3カ年伸び率	
1	中国	23,722	28.8%	
2	米国	11,660	34.8%	
3	日本	9,774	16.4%	
4	ドイツ	5,907	-6.4%	
5	韓国	4,524	-2.9%	
6	インド	3,840	-2.4%	
7	メキシコ	3,365	25.6%	
8	ブラジル	3,146	-7.6%	
9	スペイン	2,402	2.1%	
10	カナダ	2,393	12.1%	



(出所)JETRO 単位1,000台

### メキシコは他国に比べ輸出比率が高い

■ 自動車輸出は第4位、部品輸出は第5位と、輸出比率が高い

#### 生産・輸出台数・自動車部品輸出額

全生		<b>全</b> 台数	自動車輸出台数		自動車部品輸出額	
	国名	台数	国名	台数	国名	金額
1	中国	23,723	日本	4,466	ドイツ	110,491
2	米国	11,661	ドイツ	4,300	米国	73,285
3	日本	9,775	韓国	3,063	日本	53,070
4	ドイツ	5,908	メキシコ	2,643	中国	52,363
5	韓国	4,525	米国	2,106	メキシコ	49,181
6	インド	3,840	カナダ	2,085	韓国	31,775
7	メキシコ	3,365	スペイン	2,040	フランス	27,754
8	ブラジル	3,146	フランス	1,631	チェコ	20,368
9	スペイン	2,403	英国	1,230	カナダ	16,857
10	カナダ	2,394	チェコ	1,161	スペイン	16,775

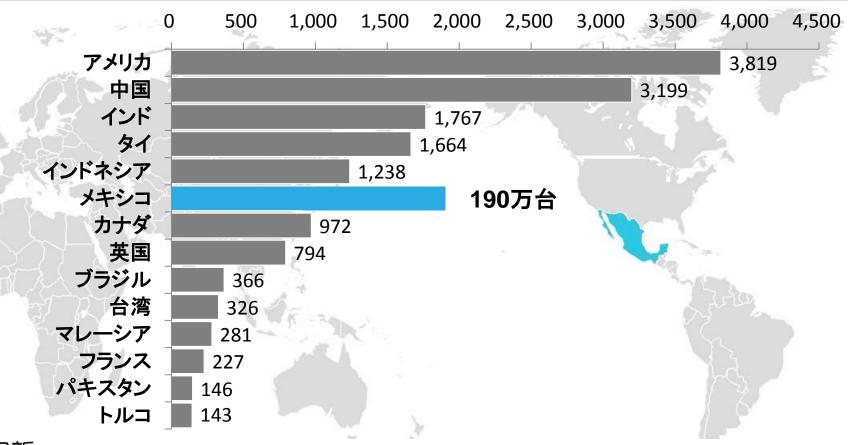


(出所)JETRO 単位1,000台、100万ドル

### メキシコが日系メーカーの重要な生産拠点に

■ 2019年の生産台数(計画)190万台と大幅な伸びを予想

#### 日系完成車メーカーの国別生産台数(2014年)





(出所)JETRO 単位1,000台

# そのメインターゲットは北米市場

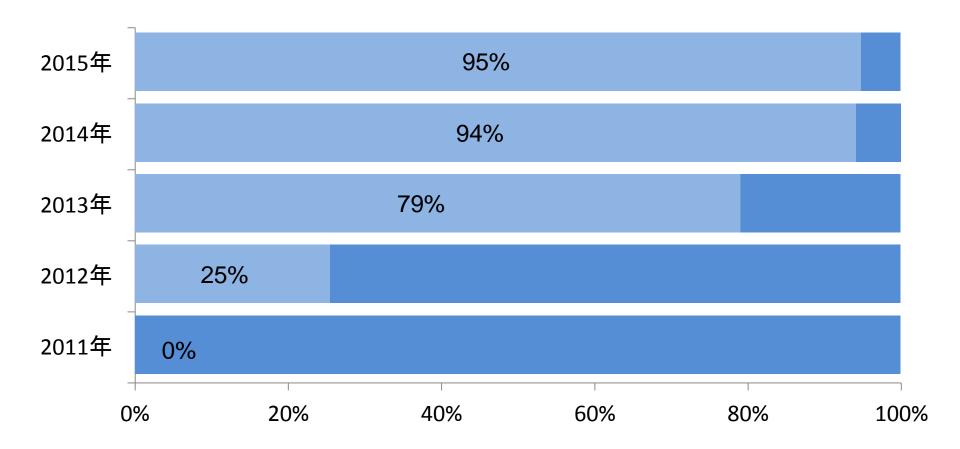


# Ⅱ. 自動車関連輸送へシフトチェンジ



### 自動車関連物流に大きく舵を切る

■ 自動車顧客のニーズを取り込み、現在では9割が自動車関連物流に

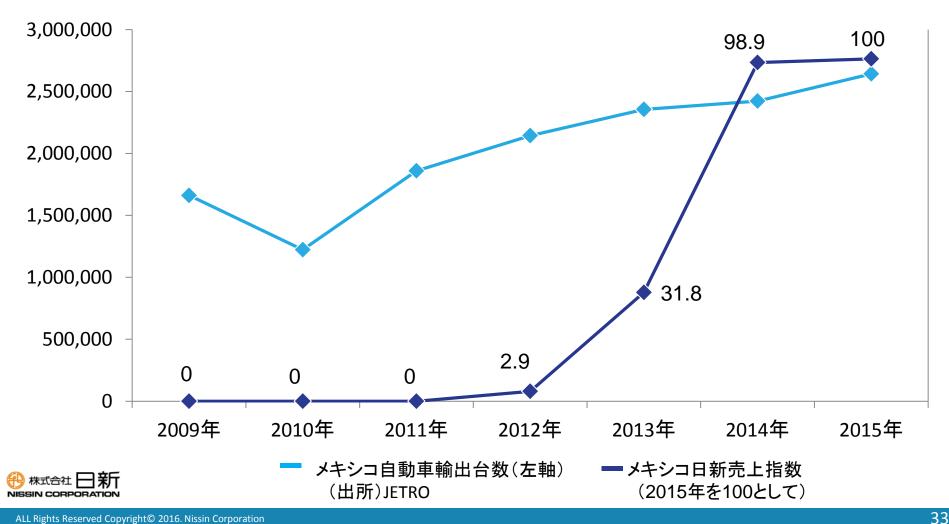




メキシコ日新 売上構成推移

### 自動車輸出台数とメキシコ日新の自動車関連売上

■2011年の自動車関連輸送を開始以降、日系メーカーの案件を中心に売上拡大



### 自動車メーカーの進出に逸早く対応

立

政府・顧客の動向

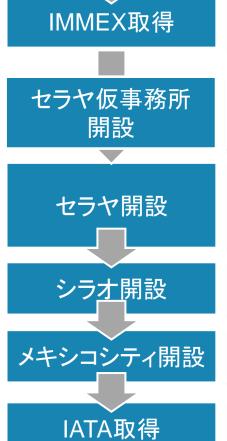
日新の取り組み

04年1月 完成車輸入数制限の撤廃

> 05年4月 日墨EPAの発効

2011年 顧客自動車メーカー メキシコエ場建設開始

2014年 顧客自動車メーカー セラヤエ場稼働



設

- 00年8月 メキシコ日新設立
- 02年9月 IMMEX(輸出向け製造・ マキラドーラ・サービス産業)を取得
- 11年4月 セラヤ仮事務所 開設 自動車FS開始
- 13年2月 セラヤ支店 開設 13年7月 日新航空サービス メキシコ現地法人(セラヤ)設立
- 14年1月 シラオ支店 開設
  - 14年3月 メキシコシティ、グアダラ ハラ空港事務所開設
- 14年11月 航空事業取扱免許 (IATA)取得



# Ⅲ. 競争優位性は、顧客対応力



## 競争優位性はノウハウ蓄積と提案力

■ 立地条件の良さに加えて、高度な物流ニーズへの対応が、顧客からの信頼に つながっている

2000年に他社に先駆けてメキシコ拠点を設立

複雑なメキシコ特有の通関業務 のノウハウを蓄積している

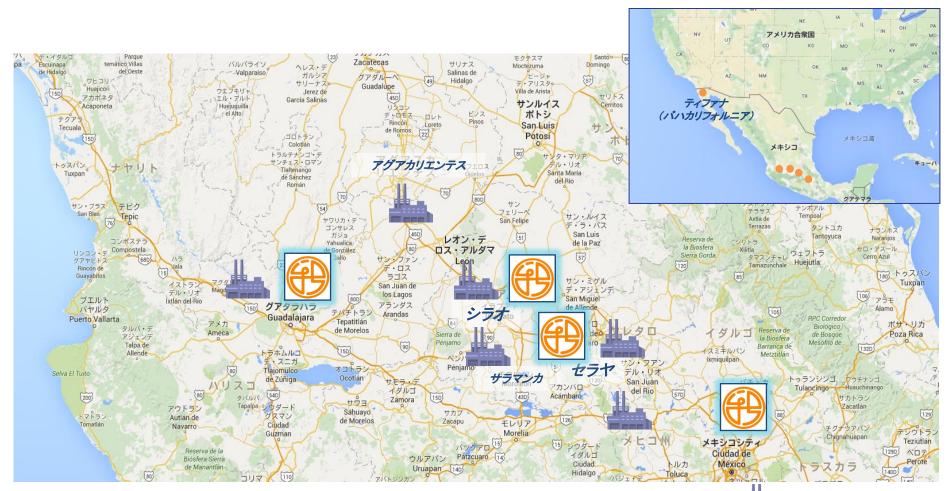
自動車メーカーからの サプライチェーン・ニーズへの対応 自動車メーカーの工場近くに 物流拠点を有している

米国とのクロスボーダー輸送 の提案 米国日新との協業した 安定したピストン輸送を実現



## 日系自動車メーカーとの距離が近い

■ 各自動車メーカーの進出に合わせ、好立地を確保





: 顧客拠点

### 課題への対応が、次なるビジネスチャンスに

■ 部品メーカーの進出ニーズをいかに汲み取るかが次の課題に

米国経済への 依存度の高さ 北米広域網の確立が重要 今後の経済成長を睨むと、北米からの輸入も ビジネスチャンスに

完成車メーカーに比べ て、部品業界が未成熟 部品物流の役割が重要 サプライチェーンマネジメントには、 物流業者の存在が、今なお不可欠

通関業務の複雑さ

輸出企業に対する保税加工措置が存在 各施策への対応は、相当のノウハウが必要



# メキシコ物流のまとめ

Point	内容
メキシコの プレゼンス拡大	メキシコは、北米市場の重要な生産拠点であるとともに、今後は、 世界市場においても世界トップクラスの主要拠点になると期待さ れている。
自動車関連輸送にシフトチェンジ	日新はその流れに対応すべく、自動車関連輸送への対応を強化。 現在は、5拠点を有し、直近営業利益は、前期比200%超を見込む。
強みは、顧客対応力	メキシコ物流は、今なお通関手続きの複雑さが残っている。日新は、他社に先駆け保税対応等のノウハウを有していることが競争 優位性となっており、さらにその利点を活かす方針である。

